

第17回の主な意見

主な記述箇所	項目	意見	
第1章	現状認識	技術の役割	L1L2の粘り強い考えが、新しい技術開発をもたらした。 L2についてのハードの役割が不明。越流するけど壊れないものがどんな効果を出すのか、実際仙台では壊れないと考えたシミュレーションが現実とマッチした。
		セキュリティー	セキュリティーと国土交通行政。 サイバー攻撃を入れて欲しい。
		復興の棚卸し	人口減少している。復興の局面で国交省の技術がどのように活かされたかレビューする必要がある。区画整理も技術だが、機能したものの、機能しなかったものがある。それらを棚卸しすることで、技術開発が見えてくるのでは。 土地利用のことが書かれていない。
		ニーズ、ユーザーの視点	技術は重要。柔軟な対応も必要。どこでも同じ津波対応ではない。もっと地域にあった柔軟な対応ができるように。 ユーザーへの気遣い。一般ユーザーへの働きかけ。 国交省の技術政策。社会のニーズを把握できているか。総合化する技術、実装する技術。社会技術が重要。 ニーズを技術政策に落とすと、難しい問題がある。死の谷の問題(様々なリソースの不足や法律、制度等の外的要因なども含めて、基礎研究が応用研究に、または研究開発の結果が事業化に活かさない状態)。 フォローアップで限られた予算で効果を出す。個々の技術ではなく、ユーザーや社会ニーズ等需要面の評価が必要。
	基本姿勢	単品ではなく総合化。国土設計。 国の持っている力を出して欲しい。国、地方、産業界、国民、省庁融合の力。土木、建築、総合化して具体化する。人と仕組みが重要。	
	第2章	プロジェクト関係	ビッグデータをどうするのか。収集と活用があると思う。
			Society5.0に関連する取組について記載して欲しい。
			維持管理の考え方にデータベースが入っているか。
			ICT技術の交通サービスへの利活用に係る取組について記載して欲しい
			項目の順番は、防災を上にして欲しい。
長周期地震動に係る取組について記載して欲しい。			
危険を回避する、危険に負けない抵抗力をつける、災害が起きた後すぐに対応できる、回復するという4つの面で研究テーマを整理。			
国交省はITをうまく利用してくれている。ICTの利活用に当たっては、標準化、制度設計が重要。			
国民がスマホを持っている。これを活用すれば減災につながる。			
技術の利活用による生産性向上には、実際に作業する方が技術を使いこなせることが重要。			
オリンピック、パラリンピック、月に行く、金星に行くような分かりやすい目標が必要。例えば、富士山噴火があったときに復旧に〇ヶ月かかるものが〇ヶ月に半減する。			
ストックの修理で得られた知見を新設にフィードバック。			

主な記述箇所	項目	意見	
第3章	好循環	役割分担	防災分野は国土交通省が最も実践している分野であり、行政全体の中でも積極的に活動して欲しい。
		オープンイノベーション	生産性向上に関して、データのデジタル化が重要。地図のデジタル化。ICT、AI、ビッグデータの活用ではデジタルデータの観点。工学系の技術科長にヒアリングして欲しい。
			オープンデータ、オープンガバメント、国交省は沢山データを持っている。ただデータを出せば良いというものではない。官民連携が重要。
		オープンデータ	様々な出所からのデータを一元的に見られると、利便性が向上する。気候変動は長い目で見ないと微妙なシグナルなので分からない。新しいデータはバイアスがあるので、既存のデータとの整合性を図り、利用者に利便性の高いサービスを提供することが重要。
		基準	国際展開については、関係者が連携して取り組むことが重要。
		新技術の活用	九州が良い取組をしているのでどのような仕組みなのか。また広げる考えがあるのか。
			インフラ特区など、事務所と自治体が新しいことをやる仕組み。
	地域創生	整備局と大学の連携も重要。技術の集積が社会的効果をもたらすことも忘れてはならない。	
	人材育成		橋梁の維持管理をやっている人が育っているか。特定の人を思い浮かべるが、その後が思い浮かばない。研究所の中でも、パーマネントな技術者の育成が必要。
			ボトムアップが重要。いつまでも同じ技術、古い技術を使う人たちがどうボトムアップするか。
			産学官の人材交流にあたっては、それぞれが異なる観点で人事評価が行われ、整合性が取り辛いのが課題。
			ただし、IT難民が発生する。技術を使いこなしたり、生かしていない。
			任期付き研究員は人気がない。パーマネントな組織が必要。クロスアポイントメントを活用。
			人材の活用にあたっては、異分野の方々の受け入れも有効。
技術に優れた人だけが伸びるのではなく、優れた人が劣った人を助けることができるような社会施設が重要。			
国際		海外での災害発生時における、防災・減災に係る技術が見える形での国際展開が重要。	
信頼	責任	予算が限られている中で、公と私の責任の取り方のバランス。	
	国民の理解	理解されているか、フィードバックが必要。	
		ストック効果と技術の関係。緩和とストック効果。	
		コンパクト+ネットワーク、メガリージョンは経済的、環境的、社会的に評価する技術。	
		安全安心の交通の実現には、安全装置等の開発のほかに、利用する人への啓蒙活動が重要。	
マルチな効果の発揮、間接便益、環境、健康を同時に換算するコベネフィット、リスクプレミアムの考えが必要。技術の開発でストック効果でユーザーに効果が出る評価が必要。			